

やさしい

バラの作り方

雪印種苗園芸部

はじめに

春から初冬までほとんど四季にわたり、
艶麗な花をつぎつぎに咲かせ、かつその花
が高尚な馥郁たる香気を有する点では他の
いずれの球根、宿根草花にも求め難いところ
で、この点バラは花の女王と称されまた
ウイリアム・シェークスピアをして「すべ
ての花の中、バラは最も麗わしい花である」
と叫ばしめたのも当然と思われ、花を愛す
る人々のひとしく認めるどころであります
よう。

最近バラの栽培熱が逐年旺んになり、バ
ラを作らぬものは花作りでなきかのごとく
全国的に流行し、バラ会が設立され、バラ
展等各地で盛大に開催されるようになって
来た。大阪の枚方にはバラ公園が建設され
ておりその他各地にバラの見本園や試作場
がつくられて年とともに発展の機運にある
ことは、バラのファンにとつてまことに嬉
しいことである。

欧米の庭園における美の主体は緑のロー
ンに映えるバラの美しさに求めておるもの

が多いといわれる。数本あるいは数十本と
色とりどりの植込みの集団、白黄赤と咲き
誇つた蔓バラのアーチのトンネル、フロリ
パンダ種の見事なボウダーや毛氈花壇等見
るものをして美の歡喜に酔わせるに十分で
あり、最近欧米に旅行した方々のカラーフ
イルムにはかならずといつてよい程バラが
おさめられているのを見てもうなずける。

バラは大別すると、ブッシュ（四季咲大
輪叢性種）とクライミング（蔓性種）とに
分けられその間にフロリパンダ種（房咲中
輪叢性種）、シュラブ種（四季咲半蔓性種）
等あり、それぞれ品種の数は極めて多く、
さらに年々新花が育成発表せられておる。
またバラの進歩は驚くばかりで、従来つる
バラは房咲の小輪花であつたが最近では中輪
または大輪の四季咲等も発表されておる。

これらの特性を活かして、本当に楽しい
美しい花園を実現させたいものである。

過般北海道大学植物園において北海道バ
ラ会の総会が開催せられた席上、石田助教
授によつて述べられた、北海道におけるバ
ラ栽培についての講演要旨を掲げて参考に

する。

栽植

北海道の場合は
東京附近と違い、
できるだけ日当り
の良い、特に西陽
の当る土地を選定
することが大切で
ある。このような
場所の得られない

時は鉢植にすればよく日に当てることので
きるから、鉢植にする方が成績が良い。土
地は排水よく、保水力のある粘質壤土が最
も適している。

栽植距離は一般四季咲性種の場合、三
尺正方形植が適當であるが、土地の少ない
方は二尺五寸くらいでもよい。

花壇の植付けに當つては大体第一図のよ
うに直径二尺、深さ二尺くらい掘り上げ、下
部に牛糞または馬糞の腐熟した厩肥を約七
寸くらい入れよく踏みこみ、乾燥を防ぐよ
う心掛けついで土一〜二寸を入れ次に乾燥
肥料三合と木灰二合くらいを土と混合した
用土を五寸くらいの厚さに入れ、その上に
畑土をいれながら苗を定植し、十分灌水す
る。

この際、根はよく四方に伸ばして接合部
が地表に出ぬように、しかしあまり深植に
ならぬよう少々土を高くかけてやること
が大切である。

次に鉢植の場合は株の大小によつて鉢の
大きさを考えるべきで普通二年苗の場合、
六寸鉢くらいが適當かと思われる。第二図

のように鉢の穴をからで防ぐとともに瓦
片等一段くらい入れ排水をよくするように
し、次いで土を少量入れ、その上に乾燥肥
料一勺くらいと木灰少量を混合したものを
入れ、その上に培養土をいれて苗を植付け
る。植付けが終つたら十分灌水する。

肥料

バラ乾燥肥料

煉粕粉末二升、油粕二升、骨粉二升、米
糠二升、赤土四升の割合で混合し、如露で
水を注ぎ湿気をふくましめ、日の当る地面
に積み、上から藁で覆い、酸酵が盛んにな
つたら再び掘り、如露で湿気を含ましてか
らさらに積み、藁で覆つておき、十分酸酵
させる。なお一〜二度切りかえしを行い、
酸酵が終れば乾燥肥料はできたのであるか
ら、雨の当らぬ所へ函などに入れて貯蔵す
る。

水肥料

水肥料（液肥）は主として追肥として使
用するのであるが煉粕一升、油粕一升、米
糠二升、人糞尿の腐熟したもの五升の割合
でよく混ぜて一カ月以上酸酵させてつく
る。

これを使用の際一五〜二〇倍にうすめて
使用する。この液肥は芽がちよつとくら
い伸びたころ追肥として使用するのである
が、良い花を咲かせるためには少なくとも、
月二回できれば一〇日に一度の割合で追肥す
る。但し蕾が割れたら中止し、開花中は追
肥をやらぬことが大切である。開花がすん
だら前よりも少し薄く、すなわち二〇〜二
五倍くらいにしてまた追肥する。大体四〇

日目くらいで第二回の花が見られる。

バラ鉢植の培養土

鉢植用の培養土は粘質壤土四、赤土二、牛糞または馬糞の腐熟したもの二、腐葉土一の割合に混ぜたものに腐熟人糞尿少々をかけよく切りかえして使用する。菊造りの方はその培養土に赤土を少し混ぜて使用してもよい。

摘 蕾

新芽が四、五寸伸びると蕾が出て来る。この場合普通先端に三個の花蕾が見られる、この際中央にある虫害等の損傷のない完全な蕾一個を残し、他は小さい時に指先で取除くと立派な花を咲かせることができる。

病虫害

バラの病氣として北海道によく発生する主要なものには黒点病、ウドンコ病等である。

黒点病 本病はバラの葉に黒褐色の円い斑点が出て、その葉は後、黄変して落葉し、樹勢が著しく弱くなる。この病氣は八月、九月に多く発生する。この病氣を防ぐには開葉後三斗式ボルドウ液を十日ないし二週間おきに散布して防止する。開花前は茎葉が汚染し美観を害するから、その際はダイセンを用いるとよい。

ウドンコ病 高温、多湿の候に発生し易く昨年は相当の発生を見た。この病氣は若い葉や蕾に白粉を散らしたような病状で、ひどい時は花まで発生する。これを防ぐには肥培管理につとめ樹勢を良くしました石灰硫黄合剤の八十〜百倍液の散布によつて防

ぐことができるが少なくも発病を見たものは二、三回散布する必要がある。

害虫ではアブラ虫、アカダニ、介殼虫が主なものでその他チュウレンシバチ、バラクキバチ、象虫類、コガネ虫等の被害をこうむることがある。

アブラ虫、アカダニ この害虫の防除はロテゾール剤の八百倍液または燐剤で新しく販売されているマラソンを使用すれば大体防除できる。

少し使用上注意を要するが、ホリドールは非常に効果がある。

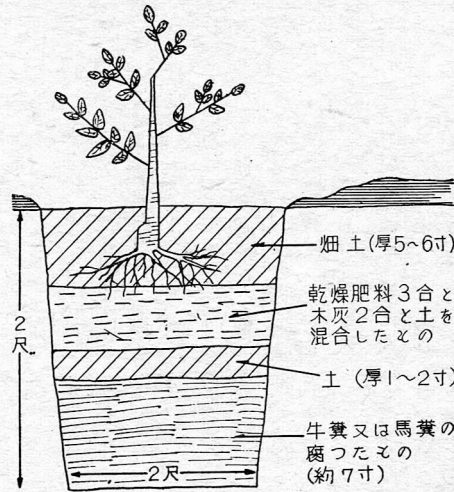
介殼虫 この害虫はバラの枝幹に附着してバラの樹液を吸収加害するものである。

この虫の駆除は六、七月ころ幼虫発生期にロテゾール剤の六百倍液を齒ブラシに浸し貝殻を摩擦し駆除するか、石灰硫黄合剤の八十倍液を害虫の附着幹へ塗布することによつて駆除することができる。

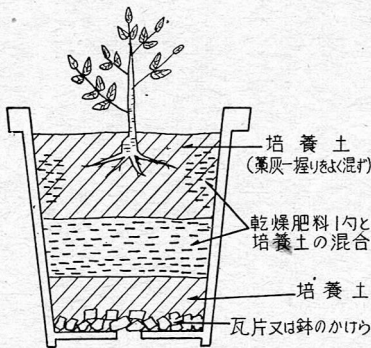
冬囲い 冬囲いは東京以南ではあまり行う必要はないが北海道のごとき寒地では冬囲いを行う必要がある。

十月下旬遅くも十一月早々、枝の長く伸びすぎたものは適当に剪定し、株の根元に四、五寸の高さに土を盛りその上に落葉等を集めて覆いたる後、丈夫な根曲竹等を三方に一本ずつ建てその先端を一方所に集めて縄で結びその上を藁等で覆つてバラの枝

第一図 花壇植込の断面図



第二図 六寸鉢植込の断面図



その準備ができず凍害を受ける。また寒地は突然の降雪があり冬囲い作業が困難なことがあるから、なるべく早目に準備するの

が庭より外に出ぬよう囲つてやればよい。気温が徐々に低下する場合は樹も寒気に抵抗する力ができてくるが、一昨年のように十一月半ばに急激に寒気が来襲すると樹は

させることは寒気に対する抵抗力を弱めるから注意したい。

剪定

春雪どけ後冬囲いを取除いたならば（札幌では四月中旬）直ちに枝の剪定を行う。この剪定は良い株に仕立てることと、見事な花を数多く咲かせることにある。

未熟な枝で凍害を受けた枝は適当なところから剪定し、また密に混み合った内側や、下枝で細い枝は枝の付根から剪定し、よく充実して長く伸びた主要な枝はよい芽三、四芽を残して剪定する。

剪定を惜しんで小枝等数多く残すようにすると徒らに枝ばかり繁茂し美花を咲かせることができなものである。

以上簡単に述べたが、バラの栽培により各位の環境をよりよく美しくしていただきたいものであります。

バラの完全配合 乾燥肥料

一袋（二升）一〇〇円

北海道大学植物園主任

石田文三郎先生指導

本肥料は鰾粕、油粕、骨粉、米糠などを原料として本文に記述した通りに醱酵製造したもので、バラにも勿論その他の高級花卉、球根などにも極めて好適した完全肥料です。是非御利用下さい。